

不登校を生じさせない学校づくり



～学校ぐるみの不登校対策のあり方～

高知市で「不登校を生じさせない学校づくり」の取り組みを始めて今年で8年目になります。各校努力はしていただいておりますが、依然として厳しい状況にあります。今回は、学校ぐるみで行う不登校への取り組みを一層充実させるために4月に開催しました2つの研修会について紹介します。

〔平成23年度 第1回高知市立学校教頭研修会〕

子どもの夢をかなえる学力をはぐくむために

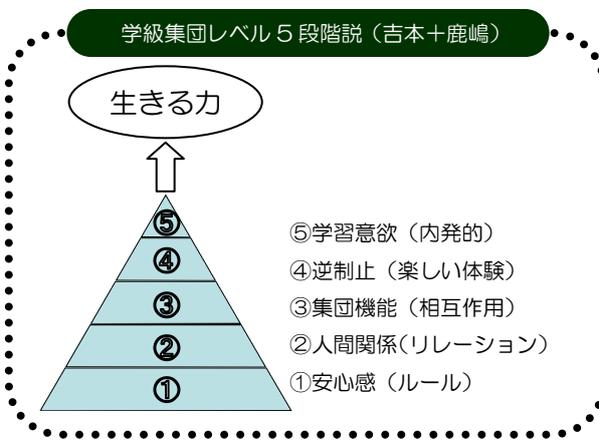
～あったかプログラムを活用して～

講師 高知大学 金山元春准教授



不登校の予防はあたたかい人間関係づくりから
～学級の子どもたちの人間関係づくりは、まず職場から～

学級集団の様子が、子どもたちの学力の定着度、いじめ発生率、不登校の出現率に大きく影響することが、Q-Uの考案者である河村茂雄先生の調査によりわかってきました。(参考:河村著「データが語る①～③」図書文化)これは、学級経営の重要性を裏づけるとともに、学級が集団としてプラスに機能することで、多くの問題が解消されることを示唆しています。



子どもたちが生きる力を育むことのできる学級集団であるためには左図のように①～⑤の段階を積み重ねていくことが大切ではないだろうか
「あったかプログラム」P4
学級集団を考えるための理論 参照

教頭研修会で行ったエクササイズ

さあやってみよう！人間関係づくりプログラム

- ① まずは自己紹介から
- ② 二人組みをついたら、ちょっと笑顔でゲームゴジラ・ゴリラ
- ③ じゃんけんをして勝ったら相手に質問・・・どんどん質問して相手を知ろう
- ④ 6人ペアになり自己紹介
- ⑤ 「学校で人間関係づくりを進めるために教頭としてできること」ブレインストーミング



職員の話じっくり聞く 挨拶は元気よく 作業して一緒に汗を流す フットワークよくすぐ行動

今日の研修を通して

職場の雰囲気
子どもに影響をあたえる

情報を共有することが
大事

管理職のリーダーシップが
大切

職場の人間関係も大事です。「あったかプログラム」をぜひご活用ください。

■ 校内不登校対策 コーディネーターの役割 ■

- ① 不登校支援委員会の司会
- ② 不登校支援委員会の資料の作成
- ③ 欠席状況の把握
- ④ 別室登校など校内の支援体制についての提案
- ⑤ 教育相談に関する研修の提案
- ⑥ 学校カウンセラー・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの連絡調整



チーム支援とは

不登校をなくすにはチーム支援が大切

支援が必要な子どものために、担任・養護教諭・スクールカウンセラー・保護者などがチームで援助案を考え、支援を行うことです。



〔平成 23 年度 第 1 回校内不登校対策委員会担当者研修会〕

「不登校の予防と対策～今年度の取り組みについて～」

「校内不登校対策担当者としてできること」をテーマとして研修を行い、コーディネーターとしての役割について確認がなされました。そのあと、参加者から校内での今後の活動について様々な意見が出されました。

児童生徒との関わりのなかで

- ・子どもの話をじっくり聞く
- ・子どもの現在おかれている状況の把握
- ・可能性を信じる

連携

- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連絡調整
- ・支援員と学級担任との連絡調整及び時間割調整
- ・学校と研究所など関係機関との連携 [情報交換・支援会の計画]
- ・養護教諭や学級担任との情報の共有
- ・支援室の記録ノートで子どもの様子や活動・学習したことを担任に伝える

支援会・研修会

- ・全員の共通理解のもと苦戦している子どもの支援を行う
- ・ケース会議の必要な生徒に必要なタイミングでチーム支援会を設定する
- ・支援会の計画及び司会・進行
- ・Q-Uを実施し、事例をもとに校内研修を行い、学年で個別の対応を考える

欠席確認

- ・全校の欠席状況を調べる
- ・連絡無しの欠席児童生徒の確認

保護者との連絡

- ・カウンセラーと保護者をつなぐ
- ・担任と情報交換
- ・保護者支援
- ・「保護者会」の提案

